

まほろん 15 周年記念指定文化財展

城跡の考古学

会 期：平成 28 年 10 月 15 日（土）～ 12 月 18 日（日）

会 場：福島県文化財センター白河館

後 援：白河市・福島民報社・福島民友新聞社・NHK 福島放送局
ラジオ福島・福島テレビ・福島中央テレビ・福島放送
テレビユー福島・ふくしま FM

はじめに

近年、県内では城館跡を対象とした発掘調査が増加しており、なかでも戦国時代から安土桃山時代にかけての多くの知見が得られています。

この展示では、主に発掘調査から得られた、城に関連する県内外の資料を展示し、県内の城跡研究の「いま」をお伝えします。

1. 中世の城から近世の城へ

16 世紀末、織田信長・豊臣秀吉政権によって、社会や文物が大きく変わりました。県内においては天正 18（1590）年の秀吉による奥羽政策（奥羽仕置）の実施以降を、近世ととらえる考え方が主流となりつつあります。

奥羽仕置の前には、在地領主の居館として村ごとに城（館）が存在しましたが、奥羽仕置以後、そのほとんどが廃絶されてしまいます。そして、強大な権力を有する近世大名の本拠（本城）と、領内の要所に設けられ家臣が管理する城（支城）に集約されることなるのです。

奥羽仕置前の城



柏木城跡（北塩原村）



小塩城跡（橋本町）



梁川城模型（福島県立博物館）

奥羽仕置後の城



二本松城跡（二本松市）



小峰城跡（白河市）



若松城跡（会津若松市）

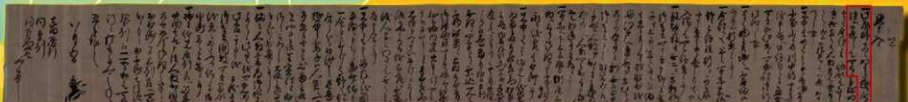
2. 領主と家臣の城

①若松城—金色に輝く天守の本城—

近江国（現在の滋賀県）出身の蒲生氏郷は、信長の娘婿であり、信長の後継者である秀吉からも厚く信頼されていました。氏郷が会津に配置されたのも、秀吉から奥羽（東北地方）の取りまとめを任されたからにはかなりません。

氏郷は会津の中心地黒川を若松と改名し、ここに城を築きました。自然石を積んだ高石垣の上に建つ天守は、奥羽で初めてとなる上方流の高層建築物で、若松城の発掘調査で出土した

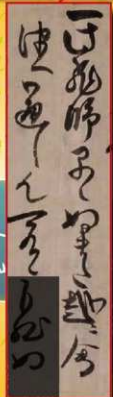
金箔瓦や桐文瓦・宝珠文瓦などは、秀吉政権との強い関連を示しています。なかでも、東国で金箔瓦が発見される城の分布から、秀吉による「徳川包囲網」を反映しているという指摘がなされています。このように氏郷は、秀吉の強い支持を背景に奥羽経営を進めたのです。また、領内において、瓦が暮かれた城は若松城に限られることから、本城と支城には明確な格差が存在したと考えられています。



黒史跡久川城跡・本丸舞台の礎石建物跡（南会津町教育委員会）

（慶長五年）八月五日付
石田三成書状
（真田宝物館所蔵）

「此飛脚早々ぬまた越二會津へ御通し候て可給候
（訳文）
「この飛脚を急いで沼田越しに会津へ通してください。」



国史跡若松城跡出土金箔飾瓦

会津若松市教育委員会 所蔵

国史跡若松城跡出土宝珠文軒平瓦

③関ヶ原前夜—通信ルートを守る城—

南会津町久川城は「伊南城」と呼ばれ、発掘調査で見えられた礎石建ちの建物跡や門跡から、蒲生期以降に築城されたことが判明しています。慶長5（1600）年に起きた「関ヶ原合戦」時に、石田三成は上杉景勝へあてた書状を真田氏に仲介するよう依頼していました。当時、沼田は真田信幸領でしたので、三成は沼田から尾瀬を経由して会津との連絡を取ろうと考えたのです。沼田道を通して会津の上杉領に入った最初の城が伊南城で、ここで飛脚を横分した可能性

があります。上杉氏側にも曾根俊成の防備を指示した書状が確認されています。支城の役割にはルートの確保という一面もありました。しかし、真田信幸が徳川側に味方し、会津方面と信州方面を封鎖したことで、三成と景勝は情報戦で不利な状況に追い込まれました。このことが「関ヶ原合戦」の結果に少なからぬ影響を与えたと考えられます。

②蒲生郷成の城—軍事性の高い支城—

蒲生源左衛門尉郷成は、葛西大崎一揆や九戸一揆の征伐で一番組に命じられるなど、氏郷の信頼が厚い武将でした。その任地は、いずれも伊達政宗領に接した安子郷→二本松→白石で、軍事的衝突の可能性があった政宗との境目を常に任されていたのです。二本松城や宮城県白石城・茨城県笠間城などには加工度合いの少ない石材を用いた高石垣が残されており、郷成がこれらを近世の城に改修したと考えられています。

郷成は、蒲生氏の宇都宮転封後も、笠間城を任せられ仕置奉行に任じられるなど、氏郷亡き後の蒲生家を支えた重臣でした。

天正拾九年七月廿四日
蒲生忠右衛門尉
町野左近助

一 氏郷様九戸五郎出陣武者指し次第
二 蒲生源左衛門尉
三 蒲生四郎兵衛尉



九戸出陣立圖の冒頭部分（福島県立博物館所蔵）

関ヶ原合戦直前の会津と大坂の連絡ルート



上田城跡出土軒丸瓦
（上田市立信濃湯分寺資料館所蔵）

3. 城内のくらし

城跡の発掘調査では、戦いの緊張感を伝えてくれる出土品も発見されています。山形県亀ヶ崎城跡から出土した木簡には、会津領だった慶長5年に城代の志駄義秀に「なまり玉(鉄砲玉)二千」を送ったことが記されています。また、実戦で使われたと考えられる櫓が、須賀川市新田館跡・猿池館跡などから発見されています。

一方、平時の城は、上級武士の生活や文化活動の拠点でもありました。「輪島そうめん」や「砂糖」・「水飴」などは庶民には手に入らない高級な贈答品でした。また、「お茶」荷札や「調茶札」、茶器の出土から、「茶の湯」が武家社会に浸透していたことが裏付けられ、教養や礼節を重んじた武家のくらしを教えてください。

新田館跡出土棹 (須賀川市立博物館所蔵)



亀ヶ崎城跡出土木製品 (山形県教育委員会所蔵)



今回の展示で扱った城館跡

本展の開催にあたり、次の機関からご協力とご指導をいただきました。厚く御礼申し上げます。(順不同)

福島県教育委員会・福島県立博物館・山形県教育委員会(公財)山形県埋蔵文化財センター・上田市立信濃国分寺資料館・空間市教育委員会・沼田市教育委員会・長野市教育委員会・真田宝物館・伊達市教育委員会・伊達市保原歴史文化資料館・福島市教育委員会(公財)福島市振興公社・二本松市教育委員会・郡山市教育委員会(公財)郡山市文化・学び振興公社・三春町教育委員会・須賀川市立博物館・須賀川市歴史民俗資料館・白河市・白河市教育委員会・白河市歴史民俗資料館・棚倉町教育委員会・会津若松市・会津若松市教育委員会・会津若松市教育委員会・南会津町教育委員会・北塩原村教育委員会・三春町歴史民俗資料館

まほろん 15周年記念指定文化財展 城跡の考古学

発行日/平成 28 年 10 月 15 日

編集・発行/公益財団法人福島県文化振興財団

福島県文化財センター白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

TEL: 0248-21-0700 FAX: 0248-21-1075

ホームページ: [まほろん](#)